

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	12-004	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Exposure to environmental and lifestyle factors and attention-deficit / hyperactivity disorder in children - A review of epidemiological studies. 小児における注意欠陥・過活動障害の環境および生活習慣要因：疫学研究のレビュー		
執筆者		
Polańska K, Jurewicz J, Hanke W.		
掲載誌		
Int J Occup Med Environ Health. 2012 Sep;25(4):330-55.		
キーワード		
注意欠陥、過活動障害、環境要因、小児、文献レビュー		
要 旨		
目的： 注意欠陥と過活動障害（ADHD）は小児において最も多い神経発達障害の一つである。ADHD 発症メカニズムは未だ明らかになっていないが、遺伝要因及び環境要因が検討されている。それらには重金属や化学物質への曝露、栄養、生活習慣、心理社会的要因が含まれる。本レビューの目的は、ADHD または ADHD 関連症状と環境要因との関連を検討することであり、環境要因には、フタル酸塩、ビスフェノール A（BPA）、タバコ煙、多環芳香族炭化水素（PAH）、ポリフッ化アルキル化合物（PFC）、アルコールが含まれる。		
方法： 出生前および出生後の小児への環境毒物および生活習慣要因への曝露と ADHD または ADHD 関連症状との関連を分析した研究を、Medline, PubMed, Ebsco を用いて検索した。レビューは、2000 年以降査読のある雑誌に掲載されたヒト対象の英文論文に限定した。		
結果： 多くの研究がなされていたが、結果は一定ではなかった。この分野で、タバコ煙曝露との関連を検討しているほとんどの研究で、ADHD および ADHD 関連症状との関連が見られた。一方、フタル酸塩、BPA, PFC, PAH およびアルコールの影響はあまり研究されておらず、関連について確固たる結論には至っていなかった。		
結論： 小児の注意欠陥と過活動障害に関連する環境要因について文献レビューを行ったところ、タバコ煙との関連についての多くの報告があったが、アルコールを含むその他の環境要因との関連は十分明らかになっていなかった。		